詩

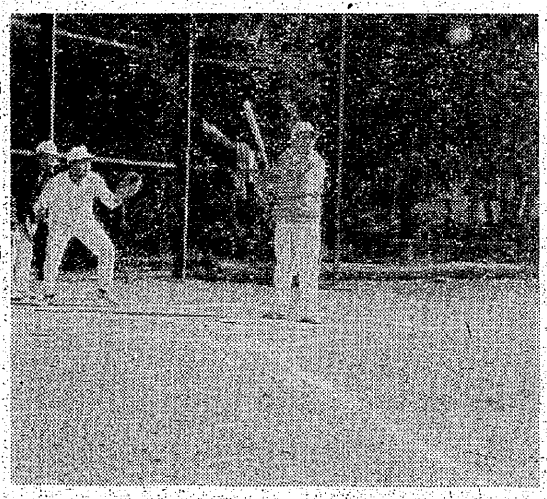
元のからだのお父さんを返して下さい

新聞〝日刊みかわ〟から

ほんに　かわいそかです
御飯も　ボロボロこぼすとです
靴下でん　自分ではききらんです
十四年間　手も足も思うごつ動かんとです
娘が結婚する時でん　よろこぶどころか何の
相談にもならんとです

ちょっと気に食わんことのあると
茶椀でん　やかんでん
手当たりしだいに投げつくるとです
親戚の者もよりつかんごつなるし
子どもたちまで逃げ出してしまうとです
私でん何べん逃げ出そうと思ったか……
ばってん
一人おいとくとはあんまりかわいそかけん
十四年間ずっと付き添うてきました

本人だけ　きつかとじゃなかです
家族ぐるみ　人にはいえん苦労ばしてきました
こがんCO患者でも介護の必要はなかとです
何もいらんです
元のからだのお父さんば返して下さい。



塚本正勝さんは、労災療養所に入院中のCO患者。何もできぬ人。

労基署交渉問題残す

上司の命令だから……

官僚機構を一歩も出ず

こんどのCO・遺族に対する補償を要求する闘いでの、労働省を相手としての交渉の焦点は、労災法の改正によって、長期傷病補償給付の患者を傷病補償年金扱いとすると同時に、患者を一級、二級、三級と格付けを行なうことに対して、抗議と要請を行なうところにあった。

一、二、三級の格付はそれぞれ主治医の診断によって決定され、一級の場合は常時介護の必要ある者、二級は随時介護の必要ある者、三級は介護を必要としない者となっている。

もともとCO中毒患者の場合は、一般の労災患者と違って体だけは当り前に見えても、神経系統が破壊されているという特殊な疾患で、医師の診断のみによる格付はなっとくできない内容をもっている。

中央での対労働省交渉を前に、七月二十七日と三十日に大牟田基準監督署、二十八日福岡労働基準局に対して、CO患者の家族会を中心とした集団要請を行なった。

そのあと八月一日と四日、それに六日と、東京での上京団の諸行動と併行して、大牟田労働基準監督署に対する行動をくり広げた。

同監督署側から、署長、課長、および課長補佐の三人の出席を求め、当事者として要請した。

CO患者の、各家庭における生活の実態。とりわけ被災後今日までの十四年間の、患者自身の健康破壊。家庭の破壊（患者と家族間の人間的な結びつきの破綻）。それらのなまなましい実態について訴えた。

これに対して署側は、CO患者や家族関係の実態については理解しており、事実を局や本省に詳細に伝えているとしながらも、署長自身患者の実態を把握し、格付の問題は前向きに検討するよう要請すると、「局長の命令だから、昼過ぎでなければ実態把握もできず、格付の問題についても、本省の指示によってしか動けない」などとくり返すばかりで、官僚としての態度から一歩も出ることはしなかった。

六日、中央―対労働省交渉妥結の後、さらに署を通して十項目にわたる問題処理上の確認をとって、ひとまず抗議と要請行動を中止したが、残された課題は多く、今後の取り組みが迫られている。

おねがい

組合員の皆さん、皆さんはそれぞれに全国の仲間と手紙などでの交流を続けていられるものと思います。ハガキでもよいから本紙に紹介し、連帯を強めるきずなにしましょう。

ベトナムになお続く悲劇

統一と平和を回復したベトナムで、連合通信の伝えるところによれば、今なおアメリカが人口密集地に散布した化学毒物（トリクロロ・フェノキシ酢酸）の後遺症に悩む人れちがいる。アメリカの侵した犯罪の恐ろしさ。

交流通じ学び合う

三多摩（東京都）から来組

このほど東京都の三多摩地区労から一泊二日の日程で来組、親しく地域の組合員と交流を行った。

来組の労働者は古賀紘一さん（自治労東京都本部）ら、女性四人を含んで四十三人。広島・長崎の原水禁世界大会に参加の途次立ち寄ったもので、国鉄、全逓、自治労、それに民間の諸労組に所属する活動家だった。

交流は、来組の日の六日、それぞれ分れて宿泊する先の地域分会で行われ、交流を通じながら合理化に反対する闘いや地域での諸闘争についてお互いに学び合った。

二日目の七日は、朝から大牟田市の市民会館の会議室で総括のための討論を行い、映画〝三池の闘い〟を鑑賞、午後原水禁世界大会が開かれる長崎に向けて去っていったが、果たしてどんな実があったことだろう。今後ともに手紙などでの交流を積みあげ、連帯を強める努力が求められている。

三多摩の仲間たちは真剣だつた。
（写真は、市民会館での交流の模様）

その後の実態を把握

三井アルミを調査

公害被害地協など

八月一日、三井アルミ公害被害地域協議会（今村俊男会長）、ならびに三里校区連絡協議会（片山末光議長）は、三井アルミの電解工場の立ち入り調査を行なった。

こんどの調査のおもな目的は、

㈠スクラバーを増設し、吸収したフッ化水素をスクラバーを通して、その中で散水を行ない、フッ化水素を除去する装置となっている。

㈡フッ化水素を拡散させるため煙突を設置しているが、これはフッ化水素が少くなるのではなく、排出量に変りはない。

以上のことが明らかとなったが、フッ化水素で大きな被害を出した当時に比べれば、取り組みが強化されていることが確認できた。

また、三井アルミの測定器（四山社宅内に設置されている）での大気中のフッ化水素の濃度測定の結果は、以前に比べるとかなり減少を示している。だがこれはあくまでも会社側の測定で、今後は市の公害課などの資料ともつき合わせた上で、最終点な結論を出す必要があろう。

この日はまた、有明緑地帯の設置に関する要求がどの程度容れられているか、についての確認も行なった。

その結果、①植樹はいちおう完成した。②不況のため遅れた体育施設は、計画の変更は考えていない。③緑地帯での青少年の遊びの管理は検討する。（ガードマンの巡回を約束させた）④防虫灯の増設は終り、雑草は除去してゆく―など、確認することができた。

とかく、雑草が多く、下枝が繁茂している緑地帯は、少年の不良化防止上からも重大な問題を提起している。すでに、茂みのなかでシンナー遊びに興ずる少年の姿も見られるといい、前記の被害地域協議会と校区連絡協議会は今後も監視の目を光らしてゆき、反公害の闘いの輪を広げてゆく努力を続ける、といっている。

（この項は、四山指導部・宮崎勝―三井アルミ公害被害地域協議会事務局長―手記から）

北海道（柴田勝雄さん）からの便り

猛暑のなかで、連日の活動ご苦労様です。

名寄では、八月に入り雨の日などは肌寒い感じがします。先日三池労組のオルグの百田さん、立山さんが名寄地区にみえられ、夜私たちと交流をもちました。急でもありましたが、わずかの仲間が集まり、三池闘争、主婦会活動、CO患者の実態などを学習しあい、映画〝三池の闘い〟（八ミリ）を上映していただきました。参加した仲間は、「怒りに燃えてくる」「労働者として闘い、生きることのすばらしさ」などの感想をのべ合いました。

第五回三池にまなぶ婦人集会に参加した浜中さんの報告会を開き、ひき続き平和友好祭を開き、ここでも映画〝三池〟を上映しました。

三池の火はますます広がっています。

×

柴田さんは「北海道名寄市東三条南五丁目」、にお住まいです。

退職の人びと

このほど、次の人びとが停年のため三池炭鉱をご退職。三池労組から去ってゆかれます。でも闘いに終りはなく、情勢はますます皆さんのご活躍を求めています。くれぐれも健康にご留意のうえ、これまで通り手を相たずさえて闘っていきたいと思います。がんばりましょう。

宮浦指導部関係

池末健一さん
退職の日　七月一日。
お住まい　大牟田市平原町一一八。

池末さん

四山指導部関係

小山　積さん
退職の日　七月二十二日。
お住まい　荒尾市新大和区一三一三。

三川指導部関係

苑田孝義さん
退職の日　七月二日。
お住まい　荒尾市新生区西一〇班。

竹村勝三さん
退職の日　七月三日。
お住まい　大牟田市明治町三丁目一―四四。

木下輝夫さん
退職の日　七月二十五日。
お住まい　荒尾市下井手開一五四九番地。